

研究課題名	急性膵炎の輸液量に関する後ろ向き観察研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 救命救急科 氏名 鈴木 秀鷹
研究期間	2017年 2 ₃ 月(倫理審査承認後)から観察終期まで (2018年2月)
研究の意義・目的	急性膵炎は10万人当たり4.9-73.4人に発生する頻度の高い疾患である。急性膵炎の急性期治療では、輸液療法が重要な位置を占めている。一方で、輸液量が増加するにつれて、合併症や死亡率が増加することが分かっている。本研究では、入院時のデータと患者に実際に投与された総輸液量を解析することで、輸液予測式を作成する。これを用いることで入院病棟の決定やモニタリングの要否などの判断の一助になると考えられる。
研究の方法 (対象期間含む)	後ろ向きの観察研究である。対象期間(2011年10月から2015年12月まで)に入院した18歳以上の急性膵炎全症例を対象にして行う。入院時データや人工呼吸器装着率、24時間以内の総輸液量を診療録から情報を得る。本研究では、入院時のデータと患者に実際に投与された総輸液量を決定木法、多変量解析を用いて解析することで、輸液予測式を作成する。これを単回帰分析を行って輸液量との関連性を証明し、内的妥当性を評価する。
個人情報の取扱い (匿名化する場合はその方法を含む)	プライバシーの保護に関しては、十分に配慮し、データ取り扱いは、ログインとファイル閲覧時にパスワードのかかる院内PC(以下、特定のPCと記載する)のみで行う。ただし、各患者には番号を割り当て、記載する。患者番号と患者名を対応させたデコード表を作成し、特定のPCに保存する。結果公表に際しては、研究の性質上、データのみを記述するため、氏名などの個人情報が明らかになることはない。
問合せ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急科 氏名 鈴木 秀鷹 TEL : 0422-32-3111 (代表) 内線6812 FAX : 0422-32-3525